

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Smoking, alcohol consumption, and Raynaud's phenomenon in middle age. 中年男女における喫煙、飲酒とレイノー現象	
執筆者	
Suter LG, Murabito JM, Felson DT, Fraenkel L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Med. 2007 Mar;120(3):264-71.	
キーワード	
レイノー現象、危険因子、喫煙、飲酒、循環器疾患、性差	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>データ上、レイノー現象と循環器疾患は危険因子を共有する。喫煙、飲酒、レイノー現象についての研究は結論が一致せずまた、いずれも小規模研究でかつ交絡要因の調整ができていなかった。我々の目的は、大規模な住民集団で喫煙と飲酒がレイノー現象の独立した関連を持つかどうかを明らかにすることであった。</p> <p>方法：</p> <p>Framingham Heart Study Offspring Cohortでのレイノー現象を分類する確立した調査を用いて、女性 1840 人男性 1602 人における喫煙・飲酒とレイノー状態を性別に分析した。多変量ロジスティック解析により、レイノー現象と喫煙・飲酒との関連を検討した。</p> <p>結果：</p> <p>喫煙とレイノー現象は女性では関連が認められなかった。しかし男性では喫煙によってレイノーのリスクが増加した (オッズ比 2.59、95%信頼区間、1.11-6.04)。多量飲酒は女性でリスク増加が認められたが (オッズ比 1.69、95%信頼区間、1.02-2.82)、男性の中等量の飲酒はリスクを軽減した (オッズ比 0.51、95%信頼区間、0.29-0.89)。両性とも赤ワイン摂取はレイノーのリスクを減少させた (女性：オッズ比 0.59、95%信頼区間、0.36-0.96, 男性：オッズ比 0.36, 95%信頼区間、0.15-0.62)。</p> <p>結論：</p> <p>我々のデータから、中年女性と男性ではレイノー現象の基礎に異なった生理学的な機構があることが示唆され、男女異なる治療方法が適切な可能性を示した。また適度の赤ワイン摂取はレイノー予防に効果的であった。</p>	